

令和6年度 指定管理施設の管理運営に関する月次評価について

施設所管課名：こども家庭支援センターこども家庭支援課

1 施設概要

施設名称	横須賀市療育相談センター
指定管理者名	社会福祉法人青い鳥
指定期間	令和6年4月1日～令和16年3月31日（10年間）

2 月次評価

評価月	評価
4月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は77名、再診は964名であった。 ・地域生活支援部門では、障害児相談支援件数が372件と引き続き多数の相談支援に対応した。 ・通園部門では、コロナ禍前のように来賓を招待しての入園式を開催し、新入園児25名中20名が出席した。 ・第3期指定期間に突入したが、改正児童福祉法により、児童発達支援センターには地域の中核機能としての役割も求められることとなった。 市内の児童発達支援事業所への助言等、これまで積み上げてきたスキルや経験を支援者間でも共有していくなど、地域資源として還元してもらうことで児童発達支援の質の更なる底上げとなっていくことを期待している。
5月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は79名、再診は1,005名であり、コロナ禍前の状況に近い人数であった。 ・外来を利用している児童、通園児童の保護者を対象に、就学説明会を開催した。就学までの流れや特別支援学級・支援学校などの支援について、また今後の学校見学等の進め方について、教育委員会から情報提供がなされた。合計175名と多くの保護者の参加があった。 ・地域生活支援部門では、各健康福祉センターと連絡会を実施し情報交換を行った。 ・必要な支援を提供するため、関係機関との連携、地域ごとの情報共有がきちんと行えていることを確認した。

6 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は 68 名、再診は 902 名であった。 ・巡回相談、保育所等訪問支援を積極的に実施し、施設内にとどまることなく、施設の外での療育支援にも貢献している。 ・今年も 3 週にわたって日曜日に「ひまわり園親子 Day」を開催し、多くの保護者が療育に関われる機会を提供していた。
7 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・通園部門では、発達支援コーディネーターフォローアップ研修として、幼稚園・保育園・こども園の先生方の受け入れを行った。 ・7 月は上記研修のほか、法人内の他センターからの見学・研修受け入れや、市内相談支援事業所からの職員見学の受け入れも実施していた。第 3 期指定管理者の審査において、委員からも期待のあった「地域へのノウハウの還元・共有」が実践されている点を評価する。
8 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は 78 名、再診は 726 名であった。 ・通園部門では、恒例となったひまわり園見学会で併行通園先や学校の先生に対し、園の活動紹介等を行ったほか、教育委員会による就学児を対象とした就学相談会を実施した。関係機関に対し、ひまわり園での児童の様子を知ってもらう良い機会となっている。 ・地域生活支援部門では、「発達障害とゲーム・ネット依存」をテーマにヨコスカ・ベイサイド・ポケットにて療育講演会を開催し、62 名が来場した。また、心理士・ソーシャルワーカーが講師となり、南横須賀幼稚園にて職員向け研修を実施した。相談業務のみならず、地域支援についても力を入れており、今後の取り組みにも期待がもてる。
9 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は 71 名、再診は 980 名であった。上半期の受診者は毎月 1,000 名前後で推移しており、総受診者数は前年度比で 200 名の増となっている。 ・地域生活支援部門が力を入れている巡回相談では、未就学児だけではなく学校への支援も実施しており、今月は小中学校 7 校を訪問した。学校に支援級が増えている中、巡回相談の訪問件数も年々増加している。引き続き、教育委員会とも連携しながら、学校への支援が可能であることを広く周知し、支援が必要な現場へ届けられるよう努めていってほしい。

	・通園部門では、クラスごとに ZOOM を利用したクラス参観を実施した。館内の通信機器故障の影響で環境が万全ではない中、対応に苦慮しながらも、園児の様子を保護者に伝えられるよう最善を尽くしていた。
10 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は 99 名、再診は 1,060 名であった。 ・地域生活支援部門では、センターを利用している学齢期児童の保護者向けに家族セミナーを実施した。また、療育教室の年長児保護者を対象に、先輩保護者を招いた勉強会を実施し、就学についての情報交換を行った。年齢ごとに必要な情報や交流機会を提供し、丁寧な家族支援を継続している。 ・通園部門では、新たに 8 名が入園し、3 歳児親子クラスを 1 クラス増設した。また、すべての児童の保護者と個別療育面談を行い、支援計画の振り返りや後期の目標設定など、保護者の希望を丁寧に伺いながら計画に反映させ、ひとりひとりに合わせた療育支援を提供していた。
11 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は 76 名、再診は 966 名であった。 ・地域生活支援部門では、通常の相談対応のほか、10 月に引き続き発達の凸凹について理解を深めてもらうため、家族セミナーの第 2 回目を実施した。 ・通園部門では、遠足で「あーすぷらざ」を訪れ、普段の保育室とは違った環境で過ごす時間を設けられた。また、恒例のひまわり園親子 Day では、普段療育に関わる機会が少ない家族も参加できるように土曜日開催とし、療育を知るきっかけづくりを行っていた。 ・業務報告によると、職員全体へのマナーやルールの再教育や、個人情報の取り扱いについての再確認を行うなど、より良い市民サービスを提供するために職員の意識向上に努めている様子が窺えた。
12 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は 78 名、再診は 875 名であった。 ・地域生活支援部門では、家族セミナー第 3 回目「うちの子の凸凹自慢」を、ソーシャルワーカー・理学療法士・言語聴覚士・心理士らにより開催した。児童発達支援センターの強みである多職種による支援に力を入れている。 ・通園部門では、施設間交流研修として市内事業所の職員への研修・見学受入れを行った。センターとして地域の療育スキル向上に対する意欲が感じられる。

	・ひまわり園保護者会主催のクリスマス会が数年ぶりに開催され、児童・保護者ら合わせて138名が参加し、冬休みの特別な一日を楽しんでいた。保護者にとっても、貴重な交流の場となっていたようだ。
1 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は72名、再診は972名であった。 ・地域生活支援部門では、所長を講師として、家族セミナー「発達に凸凹のある子どもとの関わり～親も子も共に楽しく日々を過ごすために～」を開催し、17名の保護者が参加した。 ・通園部門では、先輩保護者から学校の話聞くピアカウンセリングを実施した。 ・恒例となっている支援についても、よりブラッシュアップしたサービスを提供できるよう、実績を積み重ねながら内容や開催方法を毎回工夫している姿勢を評価する。
2 月	・診療部門、地域生活支援部門、通園部門のいずれにおいても、滞りなく運営されていた。 ・診療部門において、初診は77名、再診は895名であった。 ・県児童相談所相談員研修において、「児童相談所との連携」をテーマに、地域生活支援課・診療課の職員が講師を務めた。児童相談所設置市での業務経験を活かし、県との連携も図れる良い機会になったと思われる。 ・県主催「障害福祉業界を学ぶしごと体験プログラム」の体験施設として、参加学生（計15名）を受け入れた。若手の人材確保・育成に向け、積極的に活動している様子が窺えた。
3 月	